

Press Release: Ariake at 3daysofdesign

ARI
AKE
有明

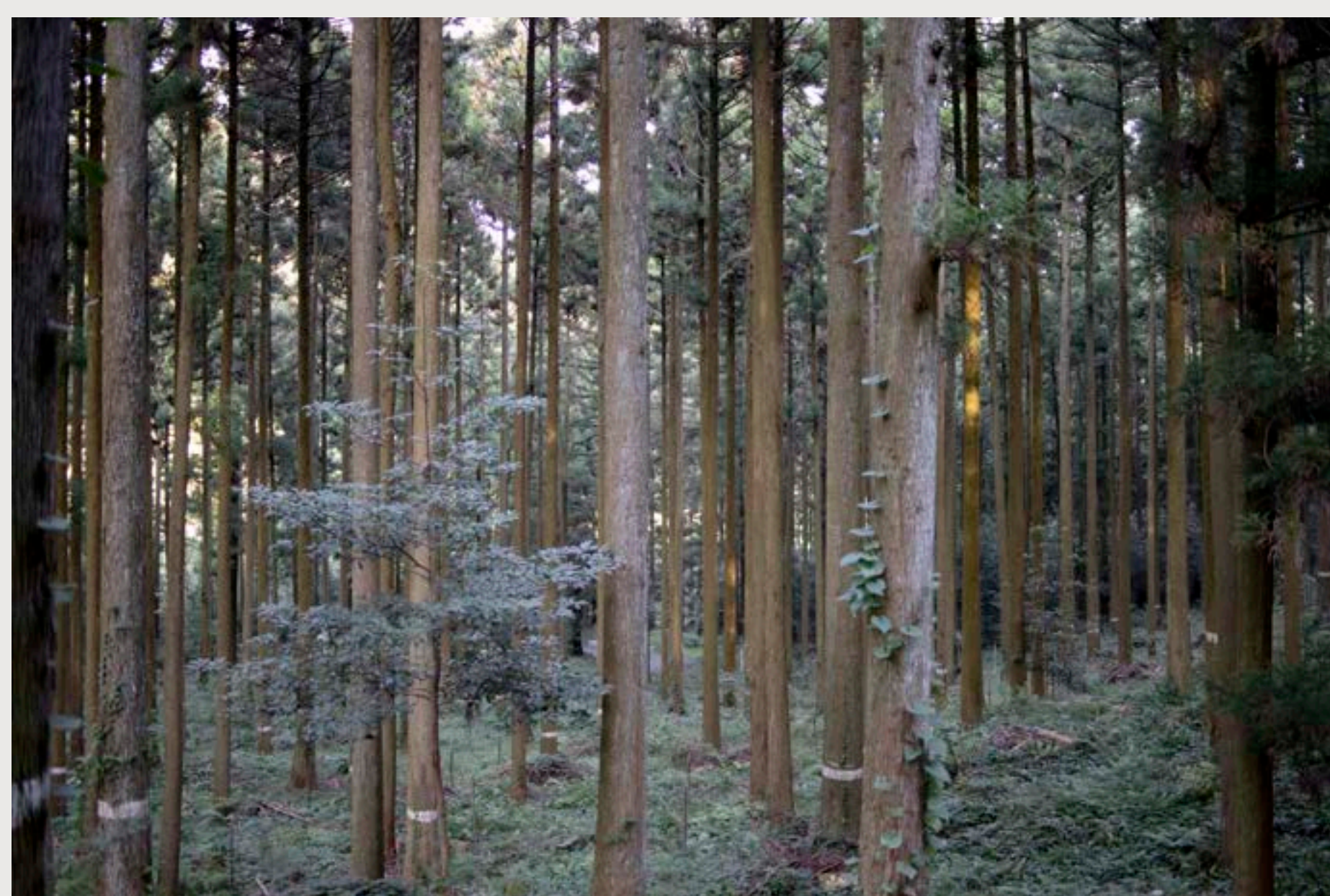
Ariake presents: Nagare 流れ

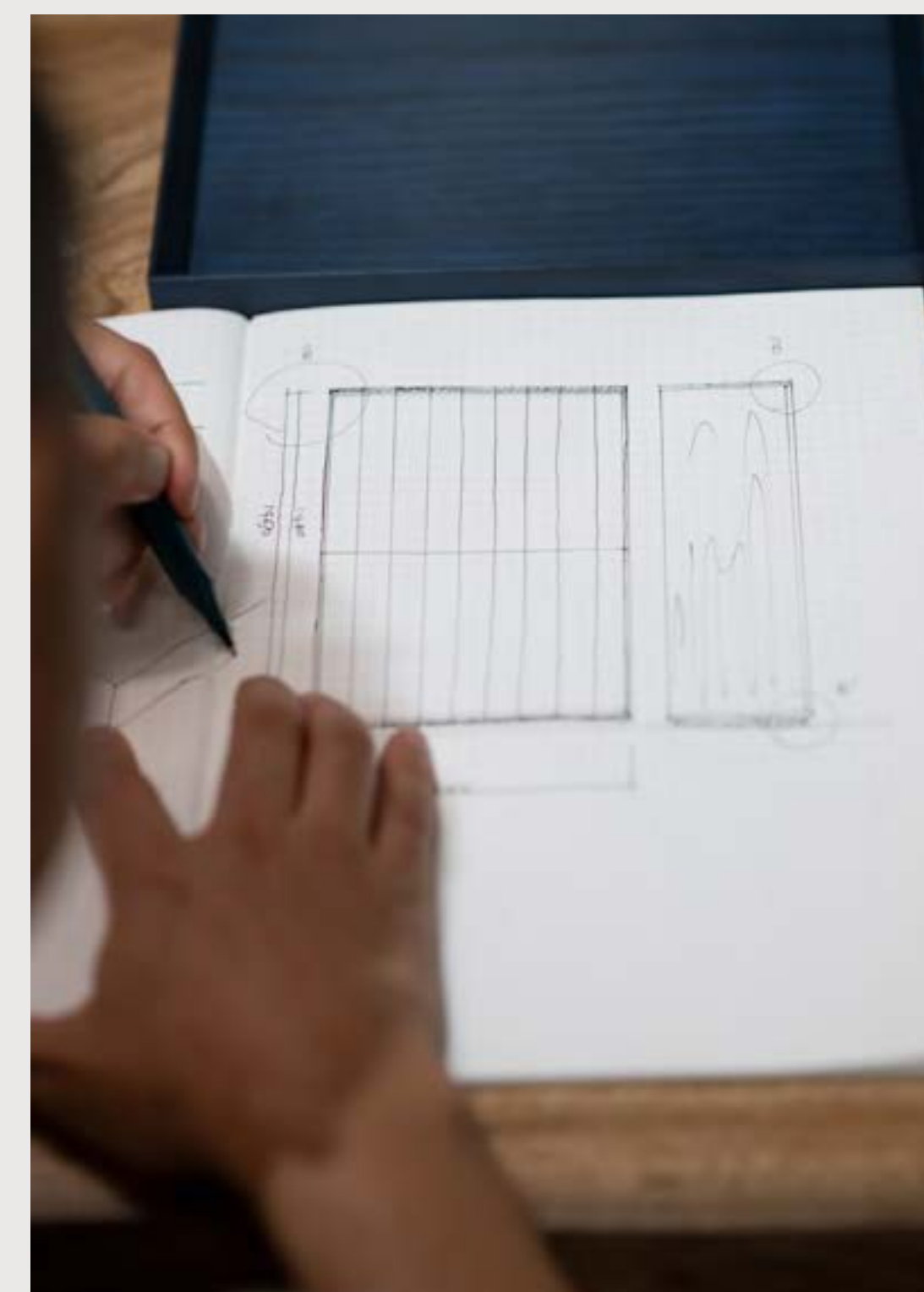
この度、有明コレクションは、当ブランドのEU総代理店である EST18 の協力のもと、3days of Design 期間中に、Kanonbådsvej にある Design House Copenhagen にて、展示会を開催いたします。「Nagare」と題されたこの特別なインスタレーションでは、コペンハーゲンの盆栽師、ヤン・レオンと、佐賀で300年の歴史を持つ名尾手すき和紙職人、谷口弦とのコラボレーションにより、川を背景に盆栽や和紙に囲まれた室内ガーデンをつくり出し、そこに私たちの家具が展示されます。

Nagareという名前は日本語の「流れ」を指しており、水の流れだけでなく、これまでの有明が辿ってきた物事の一連の流れを表しています。2024年の新作コレクションは、2023年10月に開催された「有明 デザインワークショップ」中に誕生しました。これらは、デザイナーが佐賀に1週間滞在し、有明の職人たちと彼らの新しいアイデアを形にしたものです。デザインワークショップは有明を語る上で最も重要な魂の部分であり、ブランド誕生のきっかけでもあるのですが、COVID-19の大流行により、4年間中断せざるを得ませんでした。しかし昨年、再び有明のクリエーションの流れをスタートさせ、デザインワークショップをブランドの中心に据えることができることを、大変嬉しく思っております。

2023年のワークショップでは、デザイナーと一緒に同じ佐賀県内のヒノキの森を訪れ、私たちのパートナーがどのようにヒノキ材を管理し、育て、伐採し、加工しているのかを学びました。また、佐賀市名尾の山奥で300年以上続く家族経営の手すき和紙工房、名尾和紙にも訪れました。梶の木を育て、収穫し、井戸水を使って和紙を漉くまでの工程を、名尾和紙15代目で自身もアーティストとして活動する、谷口弦氏に説明してもらいました。

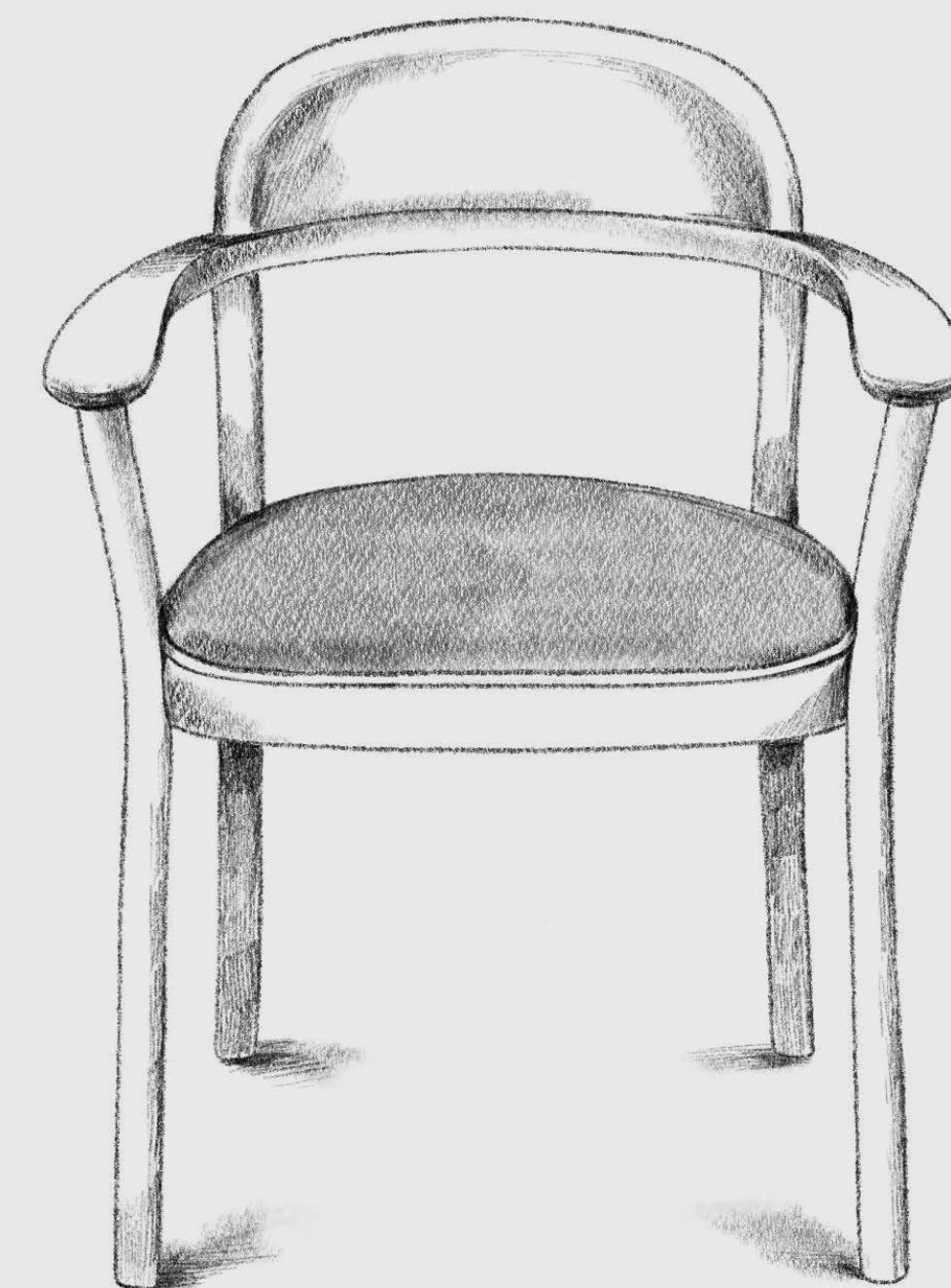
「Nagare」では、ガブリエル・タン、アンデルセン&ヴォル、芦沢啓治、ノームアーキテクト、モニカ・フォスター、寺田尚樹、クリスチャン・ハースのデザインによる8つの新商品を発表します。コレクションには、ヒノキを使った3つの新作と、和紙を使った新しいキャビネットが含まれます。また、2016年の最初のデザインワークショップで開発された「墨」仕上げにも力を入れています。Ariakeは、私たちの知る限り、日本の墨を使って木工家具を着色する世界で唯一の家具ブランドであり、その結果、私たちが誇りに思っている「伝統的な墨色」が実現しました。





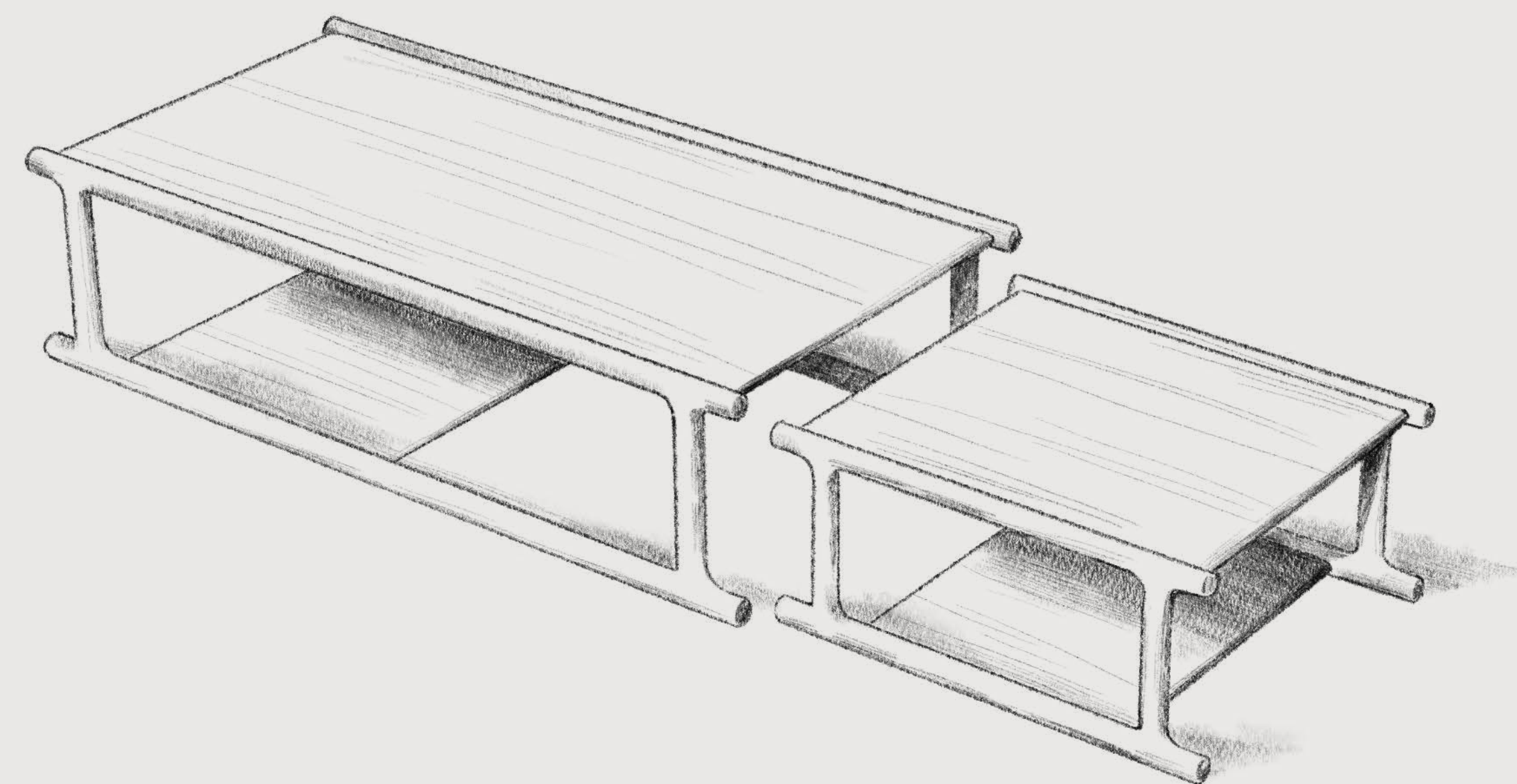
Koi Chair コイ チェア

コイチェアは、ガブリエル・タンがデザインしたダイニングアームチェアです。ゆったりとした背もたれが特徴で、鯉の胴体を思わせる柔らかなフォルムの肘掛けが名前の由来となっています。目指したのは、座り心地のよい象徴的な木製のダイニングチェアであり、同時に有明のクラフトマンシップを示すものであること。また、私たちの空間がますますハイブリッド化している今日、食事にも仕事にも適したチェアであることです。



Futago Nesting Tables フタゴ ネスティングテーブル

「Futago」は日本語の「双子」を指しており、ガブリエル・タンがデザインした、ネスティングテーブルである。それぞれのテーブルには上下2つのテーブル面があり、物を置くことはもちろん、それらはテーブルの構造を強く保つパーツとしても機能しています。小さいテーブルは、大きいテーブルにシームレスにスライドして出し入れできるため、テーブルを伸長したり、小さい方をサイドテーブルとして別々に使ったりすることが可能です。

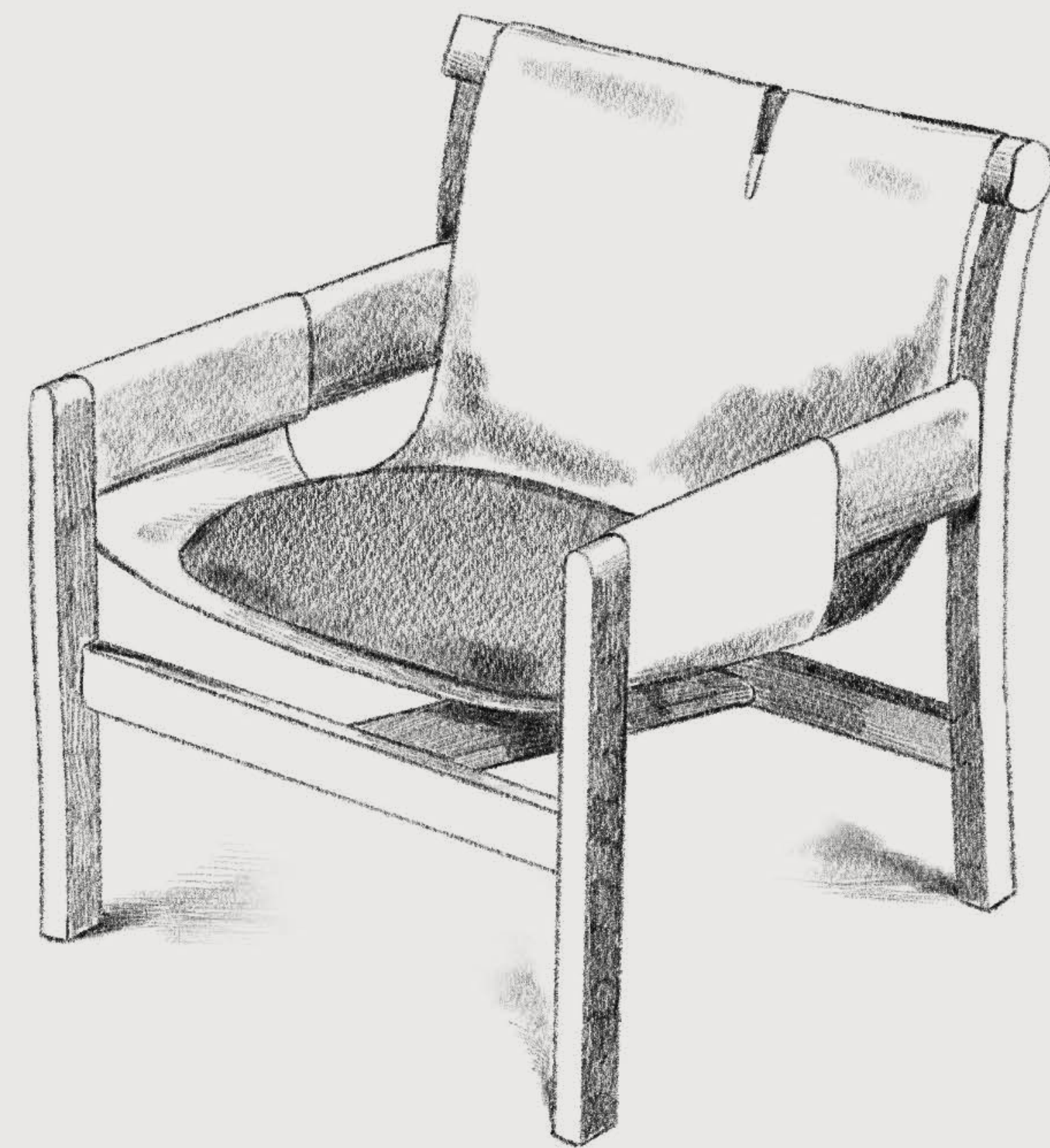


Gabriel Tan ガブリエル タン

シンガポール生まれでポルトを拠点とするデザイナー、ガブリエル・タンは、2016年のブランド設立以来、有明のクリエイティブ・ディレクターを務めています。ガブリエル・タン・スタジオは、B&B Italia、Herman Miller、AudoCopenhagen、Origin Madeなどのデザインを手がけ、伝統、クラフト、テクノロジーを再解釈する新しい方法を探求しています。ガブリエルと有明は、出会った当初より、特別なつながりを持ち、有明は2016年に彼が新たに設立したスタジオの最初のクライアントとなりました。

Sedai Chair セダイ チェア

セダイラウンジチェアは、世代を超えて長く愛用される椅子になることを目指して作られています。クリスチャン・ハースは、歴史的なスリングチェアの構造を受け継ぎながら、その構造設計とレザー sling のディテールによって新たな表現を生み出しました。その結果、カジュアルにくつろげる快適な座り心地の現代的なチェアが誕生しました。エネルギーでありながら控えめなオーラを放つこのチェアは、時間が経つにつれて無垢材で構成されたの構造体、革張りのシートパッド、座面のレザー sling など、様々なディテールの経年変化を楽しむことができます。

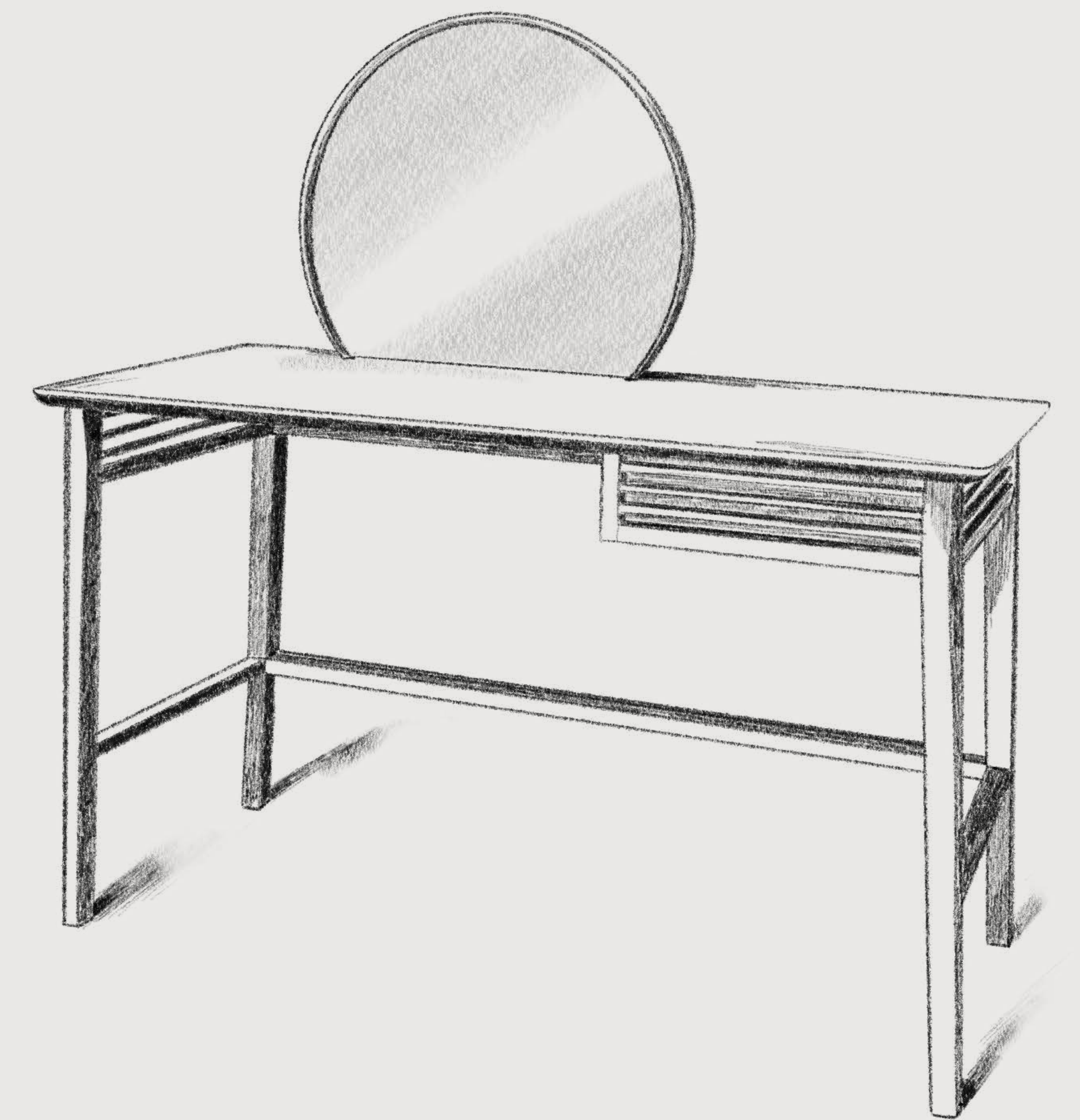


Christian Haas クリスチャン ハース

1974年ドイツ生まれのクリスチャン・ハースは、2000年にスタジオを設立。インダストリアル・デザイナーとして、家具、照明器具、磁器、ガラス製品など、さまざまな分野の製品を生み出しています。彼のデザインアプローチは、シンプルさとエレガンスを融合させている点が特徴です。彼の美意識は、素朴さ、有用性、情緒性、長寿命、独自性の調和によって支えられています。彼のスタジオは、Classicon, Rosenthal, Karakter, Karimoku New Standard, 2016/ arita, Tectaといった国際的なブランドへデザインを提供しています。長年にわたり日本ブランドとの親交も深めており、セダイチェアは彼が有明のためにデザインを手がけた最初の製品です。現在はポルトガルを拠点に活動しています。

Hinode Dressing Table ヒノデ ドレッシングテーブル

「モニカ・フェルスター・デザイン・スタジオがデザインしたドレッシングテーブルです。スカンジナビアと日本の美学が融合された、ミニマルで詩的なエッセンスが凝縮されています。海から昇る太陽を思わせる、テーブルの表面から浮かび上がる丸い鏡。そのプロポーションは、構造的な強さと視覚的な軽さの絶妙なバランスを保ち、そのシルエットは一筆書きのような流麗さを連想させます。



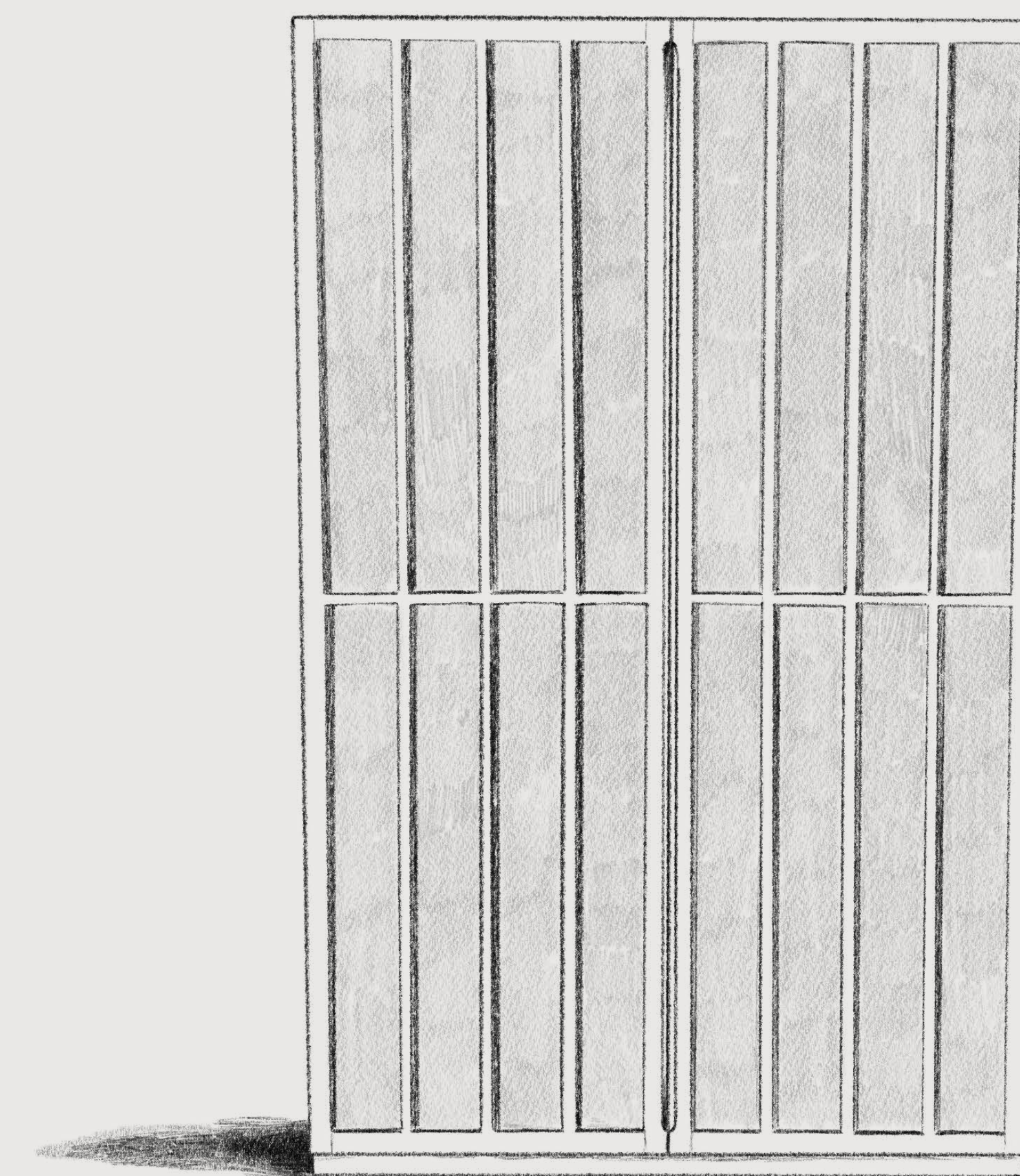
Monica Förster モニカ フォスター

モニカ・フェルスターはストックホルムを拠点とするモニカ・フェルスター・デザイン・スタジオの創設者兼クリエイティブ・ディレクターで、彼女のチームは Artifort, Bernhardt, De Padova, Fredericia, Georg Jensen, Poltrona Frau, Tacchini などの国際的に有名なクライアントと仕事をしており、2015年からは、多くの企業のクリエイティブ・アドバイザーとしても活躍しています。

モニカはスウェーデンの極北、北極圏の近くで育ちました。今や彼女は、スカンジナビアデザイン界のトップ・ネームであり、世界的に有名なオブジェや未来の名作の数々を世に送り出しています。”ヒノデ ドレッシングテーブル”。モニカが有明のためにデザインした最初の製品です。

Nao Cabinet 名尾 キャビネット

佐賀県産のヒノキ材と和紙を使用した「名尾 キャビネット」は、名尾の山奥で300年以上続く和紙工場「名尾和紙」とのコラボレーションによりで生まれました。和紙は何百年も使える丈夫な素材であり、古来より日本の日常生活に使われてきました。また、和紙を通過する光や音を和らげることで、ほのかな雰囲気醸し出します。芦沢啓治はこのキャビネットのデザインを通して、日本の伝統的な障子の新しい形を表現したいと考えました。伝統的な技法を用いながらも、現代的な収納を求める空間にもマッチするようデザインされており、埋め込み式の取っ手やエッジヒンジなどの繊細なディテールが、ミニマルなデザインをさらに引き立てています。扉を開けると、ひのきの自然で心地良い香りが広がります。



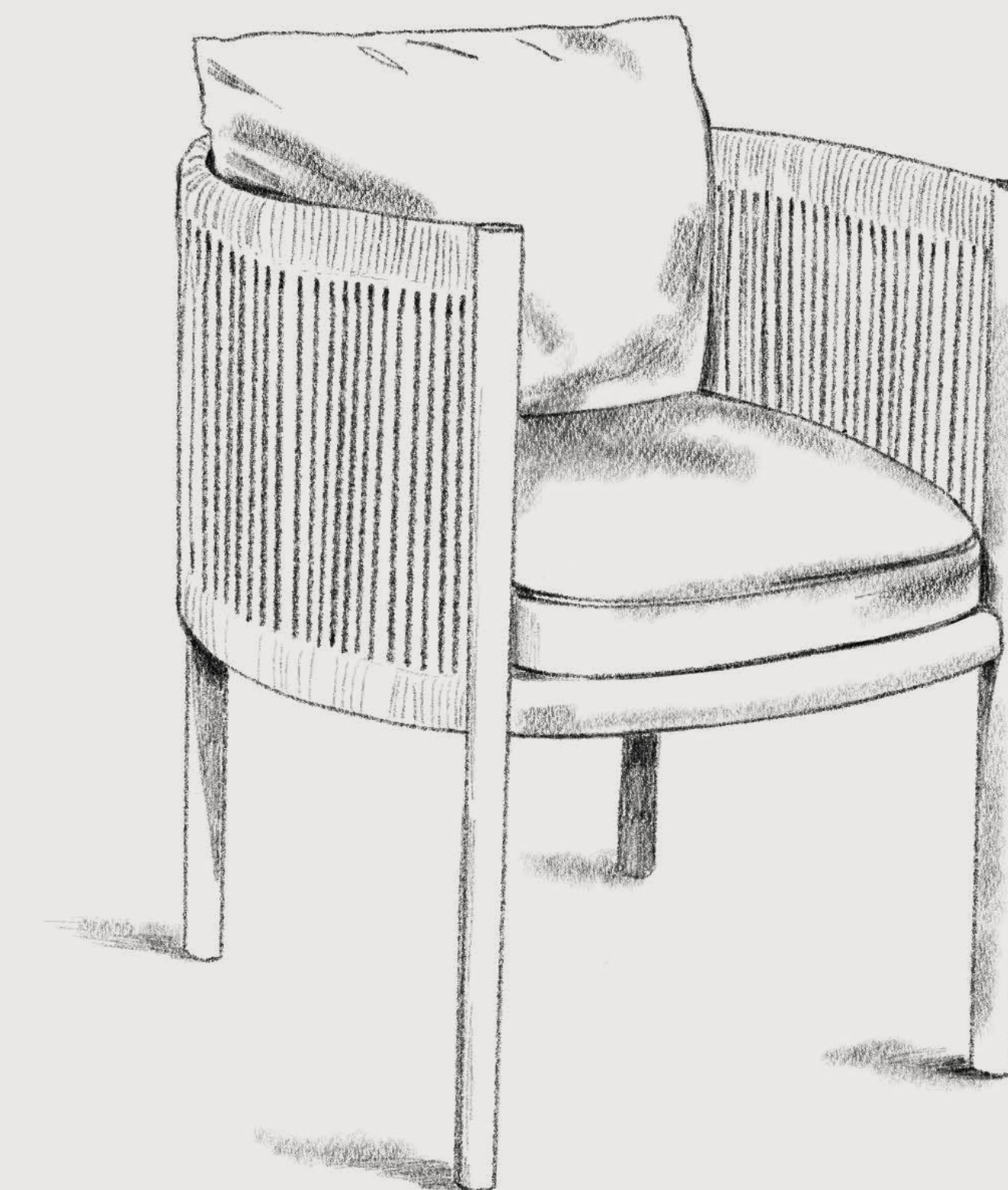
Keiji Ashizawa 芦沢 啓治

1973年生まれ。1996年横浜国立大学工学部建築学科卒業。2002年、オリジナル家具や照明を製作するスチール家具のオーダーメイド工房「スーパーロボット」に入社。ものづくりの現場で手を動かし、試行錯誤を繰り返しながら学んだというバックグラウンドを持っています。

2005年、「正直なデザイン」をモットーとする芦沢啓治建築設計事務所を設立し、素材に根ざしたクラフトを重視したアプローチで、建築からインテリア、家具デザインまで、さまざまなスケールの空間をトータルにデザインすることで知られています。東京・富ヶ谷に新しく誕生したトランクホテルの建築・デザインを手がけたほか、東日本大震災の復興支援ボランティアとして始まった「石巻工房」の家具プロジェクトを10年以上牽引しています。

Braid Chair ブレイド チェア

ブレイドチェアは、ノームアーキテクトのブレイドソファコレクションに新たに追加されたアイテムです。ブレイドコレクションでおなじみのペーパーコードで編まれたアームレストに加え、三日月型の背もたれが特徴的なこのチェアは、贅沢なダイニングルームだけでなく、ライティングデスクにも合わせることができ、またコンパクトなラウンジチェアとしてもお使いいただけます。ブレイドチェアは元々、トランクホテル代々木公園のためにデザインされたチェアでしたが、2023年の有明デザインワークショップでさらにブラッシュアップされ、私たちのコレクションに採用されました。座面の高さはダイニング用とラウンジ用の2種類からお選びいただけます。



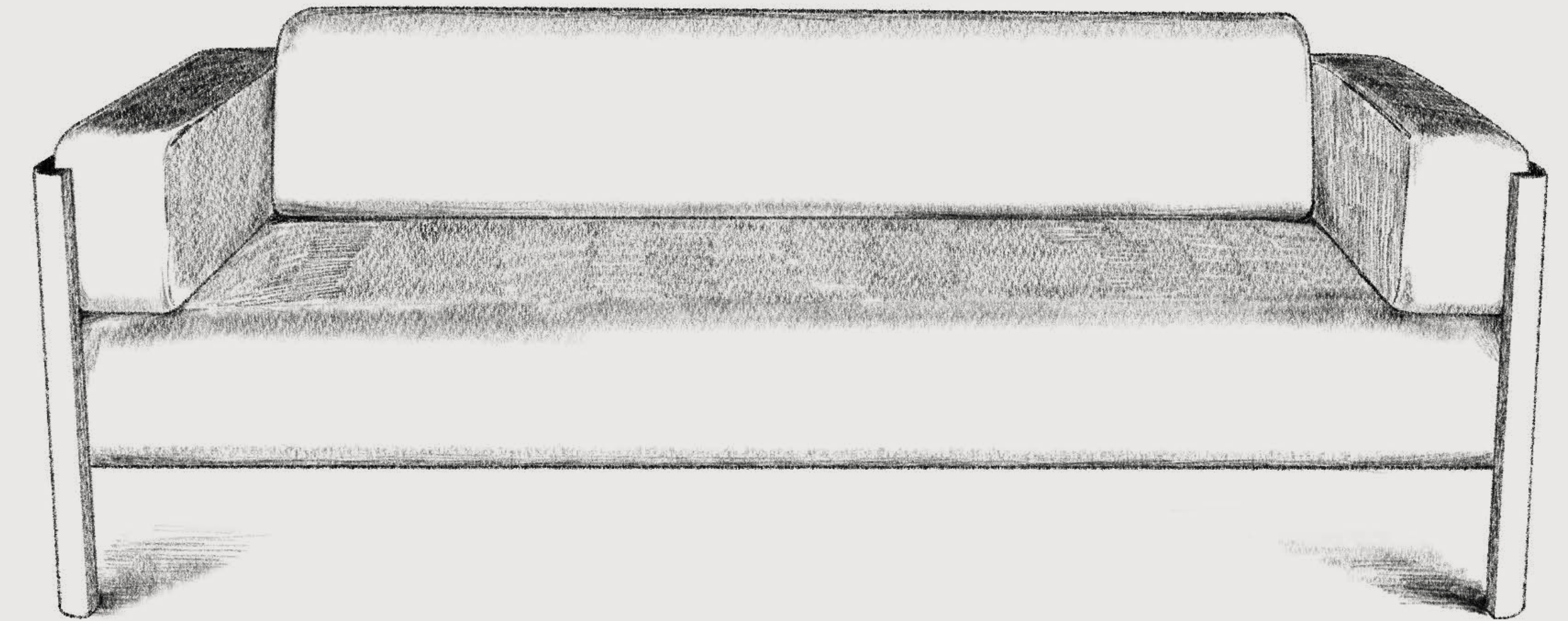
Norm Architects ノーム アーキテクト

2008年に設立されたノーム・アーキテクトは、コペンハーゲンを拠点に、人々の暮らしを豊かにするデザインに取り組んでいます。学際的な建築家・デザイナーである彼らは自分たちの仕事を、ウェルビーイングの促進、人や場所との出会いから生まれる普遍的な人間のニーズを、満たすことができるような美学を発見できる機会と考えています。

建築であれ、インテリアであれ、製品であれ、それぞれのプロジェクトは、心と身体を受け入れる触覚的なデザインを通して、建築環境を再び魅力的なものにするという大きな目標に貫かれたミニマリズムを例証しています。彼らのゴールは、規模や場所を問わず、常にデザインの本質を見極め、帰属意識、自律性、アイデンティティを求める人間の生来の欲求とつながる建物、空間、オブジェを創造することです。

Tonbo Sofa トンボ ソファ

トンボとは、日本の印刷業界で額縁やカッティングマークを意味します。このソファは、東京を拠点に活動するデザイナー兼建築家、寺田尚樹氏との初のコラボレーションにより生まれました。寺田はこのグラフィカルなマークからインスピレーションを得て、クッションを縁取る四隅を無垢材で構成されたソファをデザインし、その結果、建築家であるデザイナーのバックグラウンドを反映した、グラフィカルでありながら建築的な印象を与えるソファとなりました。コンパクトなサイズであり、4 隅の柔らかいトンボマークとその中に高密度で敷き詰められたクッションが特徴で、このソファはホスピタリティシーンやオフィスなどのコントラクトインテリアに最適です。オイル仕上げのヒノキ材のフレームからは、ほのかな天然の柑橘系の香りが漂い、心地よい癒しの空間を演出します。スモーク、ホワイト、ナチュラルのオーク材とスミ・アッシュの有明標準のカラーオプションもご用意しています。

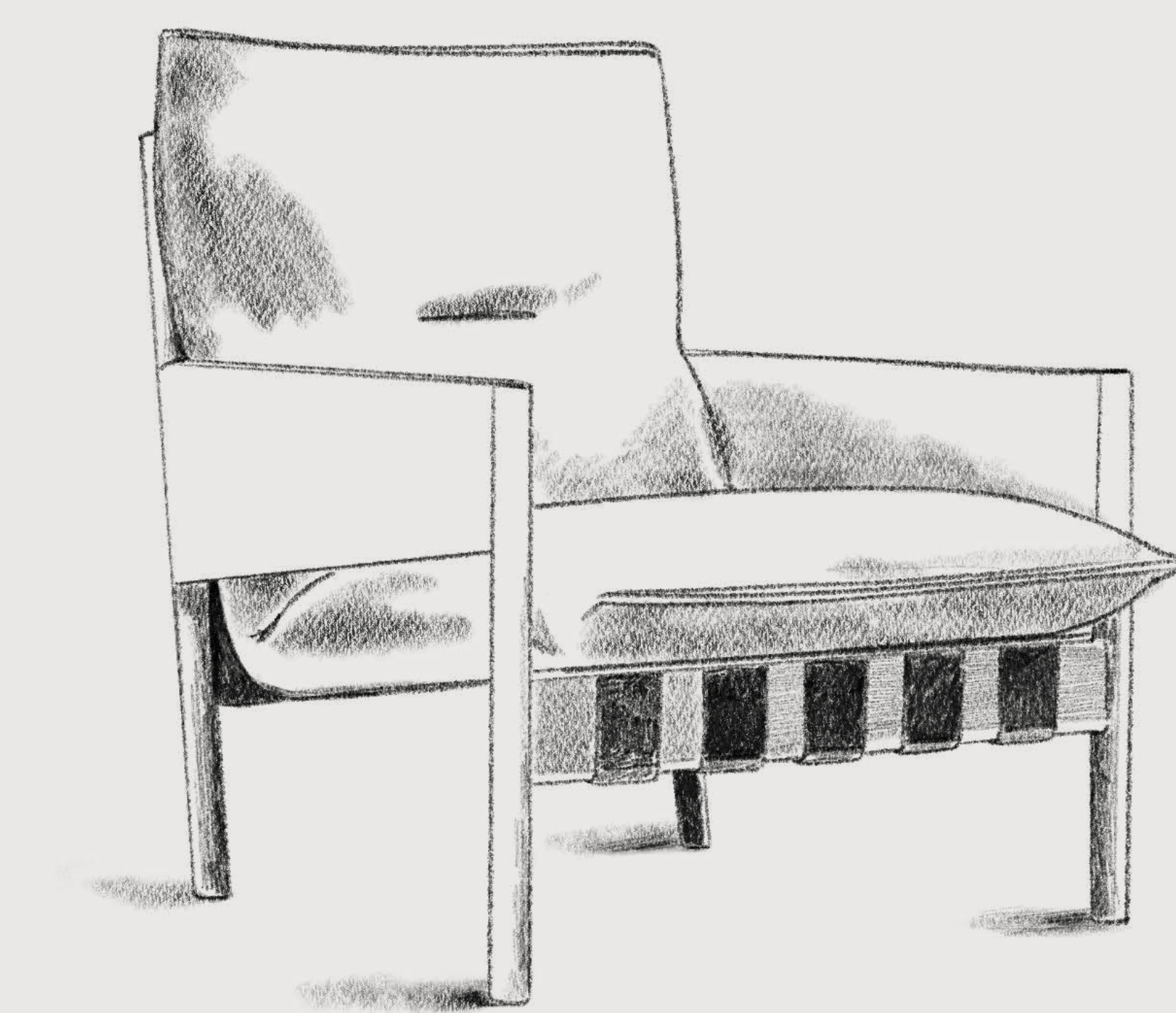


Naoki Terada 寺田 尚樹

1994年、英国建築協会スクール・オブ・アーキテクチャー・ディプロマコース修了。
2003年テラダデザインアーキテクト設立。2003年にテラダデザインアーキテクトを
設立し、様々なプロダクト、インテリア、建築のデザインを手がけました。2011年に
テラダモケイを設立し、2013年にテラダモケイショップをオープン。2018年よりイ
ンターオフィスCEOに就任しています。寺田尚樹は、同世代のデザイナーの中でも非
常に知識が豊富ですが、過小評価されているデザイナーの一人でもあり、彼と
仕事を始められることを非常に嬉しく思っています。

Zabu Chair ザブ チェア

職人の木工技術は有明の強みです。アンデシェン & ヴォルは、このザブ チェアで、ダイナミックでゆったりとした透明感のある、そして木製の構造が際立つ快適なラウンジチェアを目指しました。クッションのディテールは、日本の伝統的な座布団からインスピレーションを得ています。座布団を支えるベルトは、シートの前後のバーに沿うように巻かれており、それらが一体となって、構造を表現する装飾的なリズムを生み出しています。ザブ チェアの素材は、素晴らしい香りと質感の非常に良い、地元で伐採されたヒノキ材を使用しています。



Anderssen&Voll アンデシェン&ヴォル

アンデシェン&ヴォルは、トルビョルン・アンデシェンとエスペン・ヴォルによって運営されているオスロを拠点とするデザインスタジオであり、共にクリエイティブなバックグラウンドを持っています。トルビョルンは音楽家と教師の息子、エスペンは陶芸家と建築家の息子であり、「ベルゲン・アカデミー・オブ・アート・アンド・デザイン」と「オスロ国立芸術アカデミー」を卒業後、2000年にデザイングループ「ノルウェー・セイズ」を共同設立し、ノルウェーのデザインシーンに国際的な関心を集めました。

アンデシェン&ヴォルは2009年に設立され、家具、照明、アクセサリー、テキスタイルデザインなど、ヨーロッパで最も有名な国際的ブランドのために幅広く活動しています。アンデシェン&ヴォルは、特定のあり方に縛られるのではなく、オープンであることを好んでいて、彼らは感性に訴えかけるようなデザインを展開しています。彼らのベースにある考え方は、魂のこもったデザインを創造すること。そして物に生命を吹き込むことです。

NAGARE at 3daysofdesign

場所

Design House Copenhagen
Kanonbådsvej 4A

プレスイベント

6月12日 9:00 - 12:00

コーヒーやフレッシュジュース、クロワッサンをご用意しております。

開催日時

6月12日(水)～14日(金) 9:00 - 18:00

ジャズの生演奏とオープンバー（毎日15:00 - 18:00）

アクセス

HavnegadeとNyhavnの角より

デザインハウス・ボートが15分間隔で運行しております。

ぜひ、ご利用ください。

クリエイティブ・ディレクション： ガブリエル・タン

グラフィックデザイン / アートディレクション： マルティナ・ペリン

撮影： セバスチャン・スタドラー

お問い合わせ先:

info@ariakecollection

プレスキッドは [こちら](#)